

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2020 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	-（事務局用）	少子高齢化・人口減少対策	福岡県北九州市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	ベビまっぷを作成！子育て世代に便利な地図でママ・パパをサポート！		

（注1）地域課題タイトルは、COG2020 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	北九州市立大学 小林ゼミ 2年		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
メンバー数（公開）	3名		

#### 【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2020\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2020 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin\_cog2020@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	○
---------------------------------	---

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、これこれの課題解決のために、何をやる社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2 ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

北九州市年齢別人口のデータより 20 歳から 30 歳までの定住人口が年々減少している現状がある。そこで 20 歳から 30 歳にかけての子育て世代に対して子育てをしやすい町であると実感してもらう必要があると考える。

現状、北九州市では子育てに関する取り組みを積極的に行っているが支援・サービスの情報が享受できないことや、支援・サービスの荒が目立つという課題がある。これを住民自らの手で解決することで住民目線の子育てしやすい環境になり、定住化や転出後の U ターンへとつながるのではないだろうか。

<この課題解決のためのアイデアが具体的に実行される場面を想定してください。そこで・・・>

<「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

北九州市には子育て関連の施設を取り上げている冊子が多く、様々な情報がある。（データ①、②参照）

しかし子育て世代が子どもを連れて出かけるとき、どこが本当に子どもを連れてお出かけしやすいのか分からないなどの不便さや、家の外での日常生活に密着した情報が受け取りづらいという現状がある。

私たちは情報を絵や図で見える化をすることにより、誰にでも分かりやすく情報の拡散ができると共に地域住民から情報を集めることで、日常生活に密着した情報を集められると考え、みんなの声をマップに落とし込むアイデアを提案する。

そして情報が分かりやすく整理され地図に落とし込んだ後、子育て案内板として駅構内に設置する。

また持ち運びやすいサイズも作成し、配布、また北九州市の HP にも記載してらう。

#### ●地図の詳細

地図は紙媒体で作成する。

ベースとなるマップをもとにして地元住民の声を反映させるマップを作成

※ベースとなるマップ

子育て支援センター、赤ちゃんの駅、親子ふれあいルーム等を地図に記載。



<地元住民の声を反映させるマップ>

子ども連れにやさしい飲食店、公園、道路、また、交通量の少ない場所やバス停などの情報をポストイットで書き出して貼ってもらう。

その後、再編集し、情報を整理した後マップとして完成



## 2. アイデアの説明（公開）

## (2) アイデアの理由（公開）

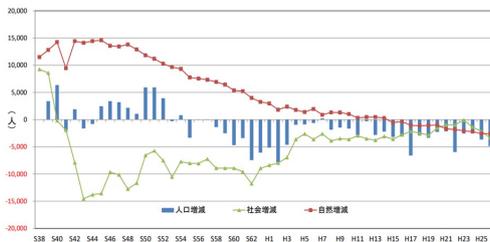
### (2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」これやりたいのかの思いを上記のデータを示しつつ書いていきます>

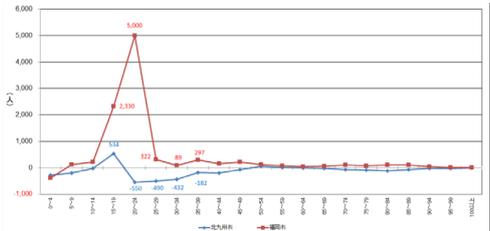
<北九州市の人口増減、社会増減、自然増減の推移>



参照 (<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kikaku/28500107.html>)

このデータから、北九州市の人口自体が減少していることが分かる。

<年齢階級別の人口移動（福岡市との比較）（H25.10～H26.9）>



参照 (<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kikaku/28500107.html>)

北九州市には多くの大学・高校等があるため15～19歳の若年者が多く来ており、転入が転出を上回っている。しかし、大学等を卒業後、就職をする年代で多くの若年者が北九州市から転出しており、20歳代は転出が転入を上回っている。また、転職期や子育て期とされる30歳代も転出が転入を上回っていることが分かる。

私たちは人口減少が進む日本において定住人口増加を図る際に、転入による人口増加は他地域との人口の取り合いになると考える。

また北九州市の特徴として、政令指定都市第1位の人口増加率である福岡市が隣接している。

このことから転入人口を増加させるのではなく、転出人口を食い止める事を第一に行うべきであると考えた。

上記2つのデータを踏まえたうえで、転出が多い20～30代の子育て世代に視点をあてた子育てしやすい環境を整えることは、転出に歯止めをかけ人々の定住化に繋げることができると考える。

加えて子どもを産みやすい環境を整えることで将来的に少子化を抑えることも期待できる。

- （データ①）施設の中に子育てに関する冊子が90冊近く存在

施設名：北九州市立子育てふれあい交流プラザ元気のもり

・北九州市有数の遊び場、子連れスポットであり、小学校に入る前の子どもとその家族、妊産婦を主な対象としている。

参照 <https://www.kosodate-fureai.jp/genkinomori>



## 2. アイデアの説明（公開）

## (2) アイデアの理由（公開）

### ●（データ②）施設においてある冊子について分析

4つの冊子の内容について、〈お役立ち情報〉・〈グルメ〉・〈ローカル情報〉・〈その他〉に分類する。

- ① Mama's Book    ② Little mama    ③ ドンナマンマ    ④ 福岡県健やか子育てパートナーマガジン  
けん・けん・ぱ！  
子づれDE CHA・CHA・CHA！



#### ① Mama's Book

〈お役立ち情報〉

・施設情報

〈グルメ〉

・北九州市内のお店

〈ローカル情報〉

・赤ちゃんの駅について

・子育てマップ北九州紹介

・駐車場有の公園、夜間病院について

#### ② Little mama

〈お役立ち情報〉

・幼稚園の紹介

・お出かけ（公園・神社）情報

・子育てコラム

・親の疑問を専門家に相談（習い事について）

・ママに対するケア

〈グルメ〉

・北九州市ならではのレシピ

・北九州市内の子連れで行ける話題のお店

・先輩ママからの離乳期レシピ

〈その他〉

・表紙討論 ディスカッション

#### ③ ドンナマンマ

〈お役立ち情報〉

・イベント情報

・施設の詳細情報（子育て応援施設）

・お出かけ 遠出県外

・住宅 RKB 住宅情報

・お悩み相談、アドバイス（カウンセラー対応）

・ママに対するケア

〈グルメ〉

・レシピ

#### ④ 福岡県健やか子育てパートナーマガジン けん・けん・ぱ！ 子づれDE CHA・CHA・CHA！

〈お役立ち情報〉

・行事に関すること（みんなの声付き）

・家庭について

・サポートや支援情報

・アプリ紹介

〈グルメ〉

・子どもにやさしいお店紹介

〈その他〉

## 2. アイデアの説明（公開）

## (2) アイデアの理由（公開）

・福岡県内ババ・ママ紹介

### ●データ①、②から分かること

- 1 施設内には様々な冊子が存在していた。
- 2 役に立つ情報はどの雑誌にも掲載があるが、子育てする環境の些細な情報の記載が少ない。  
(些細な情報→地域に密着した情報→子ども連れでも通りやすい道や来やすい公園の情報など)
- 3 北九州市に住む、住まない関係なく子育てに役に立つ情報が多い。
- 4 母親の心身に関するケアの情報の記載がある。
- 5 子育て中の方の声を取り入れて作成されている。

### ●考察

- ・1、5より子育て世代に向けた冊子であり、設置場所も限られているため、ターゲット層以外に情報が届きづらい。
- ・2、3より日常生活で便利な情報の記載が少なく、日常生活に密着していないと考えられる。

### ●（データ③）インターネットで区ごとの子育て情報を見たい場合

インターネットで「北九州市〇〇区 子育て」検索

参照：北九州市 HP <https://www.city.kitakyushu.lg.jp/>



### ●データ③から分かること

- ・区ごとによって、出る情報の種類や情報にたどり着くまでの手順が違う。
- ・北九州市の各区 HP の子育て情報に関する記載にばらつきがある。

### ●考察

- ・データ③より情報が整理されていない。これを改善すれば身近な情報を手に入れやすくなり、さらに子育てしやすいまちへと発展していくのではないだろうか。

### ●効果

- ・これらのデータから私たちは市民の声を集めて作成する**ベビマップ**を提案する。このマップを作成することで、子育ての視点でまちをみて、まちのさらなる理解へとつながる。
- ・市民の声を集めるために駅に設置することで、子育て世代以外の目にも触れるため、市民全体で子育てへの関心が高まることが期待される。
- ・レビューや口コミを書き込むことができることにより、施設のさらなる環境や設備の向上が期待できる。

## 2. アイデアの説明（公開）

## (3) アイデア実現までの流れ（公開）

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の**大まかな規模とその現実的な調達方法**、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して描いていきます>

**アイデアを実現する主体**：北九州市、市民団体、アイデアに共感する市民など

#### 【ステップ1 マップの作成】

##### ヒト

- ・ベースとなるマップを作成する人（行政）
- ・駅を訪れて地図にポストイットを貼る人（駅利用者）  
（JR 小倉駅 1 日乗車人数：35,636 人 参照 <https://www.jrkyushu.co.jp/company/info/data/station.html>）  
（北九州モレール小倉駅 1 日平均乗降客数：18,230 人 参照 <https://www.nishitetsu-media.com/traffic/monorail/>）

##### モノ

- ・小倉駅、子育てふれあい交流プラザ元気のもり（設置場所）
- ・ポストイットに書き込む場所（机）
- ・ベースとなるマップ
- ・ポストイット
- ・筆記用具

##### カネ

- ・マップ印刷  
B0 サイズ 単価約 3000 円×2 枚＝約 6000 円
- ・ポストイット  
450 枚入り 単価約 800 円×2 セット＝約 1600 円
- ・筆記用具（ペン）  
5 本入り 単価約 600 円×2 セット＝約 1200 円

#### 【ステップ2 マップを整理、再編集】

##### ヒト

- ・マップに貼られたポストイットを整理し、再編集する人（学生、市民団体、など）

##### モノ

- ・編集ソフトウェア Adobe illustrator

##### カネ

- ・Adobe illustrator 月額 1078 円

#### 【ステップ3 再編集したマップを設置、配布】

##### ヒト

- ・再編集したマップを設置する人
- ・配布する手続きをする人（学生）

##### モノ

- ・再編集したマップ（小倉駅に設置用）
- ・再編集したマップ（持ち運び用→子育て世代が集まるような場所（例：市役所、区役所、その他施設））

##### カネ

- ・再編集したマップ（駅に設置用）B0 サイズ 単価約 3000 円
- ・再編集したマップ（持ち運び用）B4 サイズ 500 部印刷 35,000 円
- 予算合計**約 47,878 円  
雑費込みで約 50,000 円と想定。

#### ●資金調達方法

マップに店や企業などの名前を載せることを広告とし、  
1 社 1000 円で受け付ける。  
その資金でマップの印刷や備品購入などを賄う。